

混声合唱団「樹」第4回演奏会

混声合唱とピアノのための「樹の心」初演

混声合唱団「樹」代表 榎 幹雄

5月26日(日)江別市のえぼあホールにおいて混声合唱団「樹」第4回演奏会が行なわれました。

混声合唱団「樹」は2010年に合唱指揮者として長年活動されている横山直樹先生によって創設された合唱団で、現在約30名で活動しています。

演奏会では第1ステージでウィリアム・バードの作品、信長貴富さん作曲『思い出すために』(抜粋)、中島みゆきさんの「麦の唄」「時代」とバラエティに富んだ曲を歌い、第2ステージでは昨年「樹」の桂冠指揮者になられた横山直樹先生の指揮によりNコンの名曲「ひとつの朝」「ともしびを高くかかげて」を演奏しました。

第3ステージでは賛助していただいた合唱団アラカルトさんによる、混声三部合唱とピアノのための「なんとなく・青空」が演奏され、最終ステージで「樹」、アラカルトおよび有志の皆さんによって結成された「樹の心」を歌う合唱団によって藤嶋美穂さん作曲、混声合唱とピアノのための「樹の心」の全曲初演が行われました。この曲は次々と優れた合唱作品を生み出して近年評価が高まっている藤嶋美穂さんに横山直樹先生が委嘱されたものです。

客演指揮をしていただいたのは横山直樹先生のご子息で全国をまたにかけて活躍されている合唱指揮者横山琢哉さん、ピアノは多くの藤嶋作品の初演を手掛けている石井ルカさんです。

演奏は作品の素晴らしさ、指揮者の的確で情熱的な指導、そしてこの作品にかかる合唱団の思いなどが結実してとても感動的なものになったと思います。かつてないほど多くご来場いただいたお客様にも喜んでいただけたなら私たちにとってこの上ない幸せです。

高田敏子作詩/藤嶋美穂作曲 混声合唱とピアノのための「樹の心」

1. 樹氷 2. 雪 3. 樹の心 4. みかん 5. 美しいものについて

<https://youtube.com/playlist?list=PLc0YfD-EmSoGYWI6PnZJfp-72hsTFAKxZ&feature=shared>

「樹の心」について 藤嶋美穂 (プログラムより抜粋)

2021年の夏、横山直樹先生から「新しい混声合唱組

曲を」との依頼を受けました。北海道の合唱界でみんなのお父さんのような存在である直樹先生と、混声合唱団「樹」の皆さんの素朴で温かい歌声に合う詩を探し出し、優しい言葉で人生を見つめた高田敏子さんの詩の中から、「樹」が登場する5編を選びました。

組曲の構想をしていたのはコロナ禍の真っ最中で、合唱を愛する人々はいつ終わるとも知れない冬をじっと耐えている、樹氷の心を持っていました。それもあってか、この組曲は「待つこと」と、「待っている時間が育むもの」への思いが現れたものになりました。長い時間をかけて育まれたものが実を結び、生き方へとつながっていくこと、無駄な時間などないということ、高田敏子さんが描く樹は知っているのでしょうか。そんな「樹の心」を、「樹」の皆さんと分かち合えることを嬉しく思います。素晴らしい機会をいただけたことに心から感謝申し上げます。



藤嶋美穂 プロフィール

北海道札幌市出身。幼少よりピアノを、北海道札幌北高等学校在学時より合唱を始める。2008年混声合唱団THE GOUGEを結成、現在まで代表を務める。作曲は独学。合唱団の依頼等により

合唱曲の作曲・編曲を行うほか、小学校の校歌制作も手がける。女声合唱曲「夜の雪」で第1回ハンナ作曲賞合唱部門優秀賞。自身の作品は、パナムジカ出版及びカワイ出版から刊行されている。主な作品に、混声合唱組曲「あさきよめ」、男声合唱組曲「この道より」など。

榎 幹雄 プロフィール

札幌出身。北海学園大学グリークラブに入り本格的に合唱を始める。31期団長。大学時代からNOVA男声合唱団で歌い、卒業後に札幌アカデミー合唱団にも所属。23歳で東京に転勤となりコーロ・カラス、Tokyo male choir KuuKai、その後クール・ルシャンで歌う。また大学グリーの東京周辺のOBを中心に作られた男声合唱団クール・ウルスで東京男声合唱フェスティバルなどに参加。2021年36年ぶりに札幌に戻り札幌のOB会活動に参加するとともに混声合唱団「樹」に入り現在「樹」の代表を務める。